

・ Compatible : Arsenicum album, Bryonia, Belladonna, Ignatia, Kali bichromicum, Lycopodium, Nux vomica, Phosphorus, Rhus toxicodendron,

Sepia, Sulphur

・ Complementary : Allium cepa, Coffea, Chamomilla, Nux-vomica, Penthorum, Silica

Pyrogenium 腐った肉 [あらゆるタイプの細菌感染、化膿、敗血症]

MATERIAL

このレメディは、1880年にJohn Drysdaleが、牛肉片を水に浸して、日の当たる場所に3週間放置したものを原料にしてつくったのが最初です（Drysdaleは、これをPyrexinと呼んでいました。ほかにSepsinとも呼ばれていました）。現在では、牛肉、豚肉、人の胎盤が使われています。

FIRST PROVING

Drysdale, Wybornら

MIND

Pyrogeniumタイプは、通常、食欲はなく、熱い飲物で改善します。非常に喉が渇くので、冷たい飲物を少量飲むとすぐに吐いてしまいます。舌は赤くつやつやしています。敗血症のために心臓が弱く、少しの運動でもマラソンをしたように疲れてしまいます（落ち着きのなさは動くことで改善します）。

動悸も動くことで悪化します。眼球の動きも変な感じがします（Eupatorium）。寝ているベッドが硬く感じるようになります（Baptisia, Arnica, Rhus toxicodendron）。不安感で落ち着きがなくなります。夜になると頭が冴えてくるので、話をしたり、物書きができるようになります。

脈拍と体温の相関の不一致があり、脈が速いのに体温はそれほどでもなかったり、逆に脈は遅いのに体温が高いという例が多く見られます。

CLINICAL APPLICATIONS

- ・ あらゆるタイプの急性/慢性の細菌感染、化膿、敗血症に使われます。
- ・ 腐った物を食べたときにも使われます。
- ・ 出産時の感染や胎盤停滞、生理中の発熱にも適用されます。
- ・ 産褥熱：分娩24時間後から11日目までに起こりま

す。

- ・ 化膿、膿瘍、細菌性疾患、中毒以来、慢性的に体調が悪いとき。
- ・ 体から腐肉の臭いがしたり、分泌物や排泄物に腐った臭いがするとき。
- ・ 付随する症状としては、発熱（脚の痛みを初期に感じます）、痛み、落ち着きのなさ、下痢などがあります。
- ・ 膿瘍、敗血症、潰瘍、腹膜炎、歯肉炎、発熱、化膿、皮膚の潰瘍など
- ・ 高熱

しばしばHepar sulphur, Mercurius, Silicaなど、他のレメディとともに処方されます。

MODALITY

- ▶ 暖めること、入浴、飲物を飲む、患部を圧迫するなど
- ◀ 寒い、湿った気候、目を動かすこと

RELATIONS

- ・ Complementary : Arsenicum album, Baptisia, Bryonia

● 他のレメディとの併用投与例：Hepar sulphurとの併用例

〈皮膚膿瘍のケース〉

■ 化膿の初期段階の処方例：化膿を抑えていきます。Pyrogenium30cとHepar sulphur30cをそれぞれ1～2時間の間隔を空けて1日2、3回投与します。

■ 膿が溜まり始めた段階の処方例：中程度のポテンシーを使用する方法や連日ポテンシーを上げていく方法など、化膿病巣の状態に応じて使い分けをしていきます。正確な処方には、化膿のステージと病巣の的確な判断が必要になります。

膿瘍の初期段階や皮膚の表層の化膿の場合の例では
1回目：中ポテンシーで投与します。Pyrogenium30cとHepar sulphur12cを1～2時間の間隔を空

けて投与します。

2回目：12時間後にポテンシーを上げます。

3回目：さらにポテンシーを上げます。

膿瘍が進んだ段階では、上記の方法は使用しません。
膿の形成状態に応じてポテンシーを調節します。

■**排膿段階での処方例**：排膿直前であれば、Hepar sulphur の低ポテンシーで化膿を促進させ、排膿の準備

をします。

切開やドレインなどは医師に任せます。

その後、高めのポテンシーの Hepar sulphur と中程度のポテンシーの Pyrogenium を併用します。

ほかにも化膿のレメディはたくさんあります。それらの多くは、Pyrogenium と併用すると効果的です。